ビルド&スクラップで財政健全化を

―― 静岡県議会9月定例会報告 ――

静岡県議会9月定例会は9月17日から10月10日までの24日間開催され、知事提出25議案はすべて可決成立しました。

ふじのくに県民クラブは全ての議案に賛成。私は会派を代表して賛成討論に立ち、子どもの安全対策の強化や豚コレラ対策、多文化共生施策の推進等を評価するとともに、環境変化へのスピーディな対応を要望しました。

一方、財政健全化に対する県の姿勢に、少々苦言を呈しました。

行政は、新年度が始まる前に年間を通した「当初予算」を策定します。「補正予算」は当初予算決定後の国事業への対応や、社会情勢の変化に応じた施策が中心になります。子どもの安全対策や豚コレラ対策はまさにこれにあたります。今回の補正予算には、本来、当初予算で計上すべきと思われる事業が含まれていました。

県は、財政健全化の一助とすべく、今年度当初予算から「枠配分方式※」という新たな予算編成のしくみを導入しましたが、こういう補正予算事業が増えると新方式の効果が薄れてしまいます。

私は、反対はしませんでしたが、新たな事業をやるのであれば古い事業をやめる、いわば「“ビルド&スクラップ”という考え方が必要」との意見を伝えました。

閉会日の翌11日、財政当局は令和2年度の当初予算編成要領を示達しました。

この中で「予算編成五箇条」なるものが示され、早速“ビルド&スクラップ”の文字が入っていました。

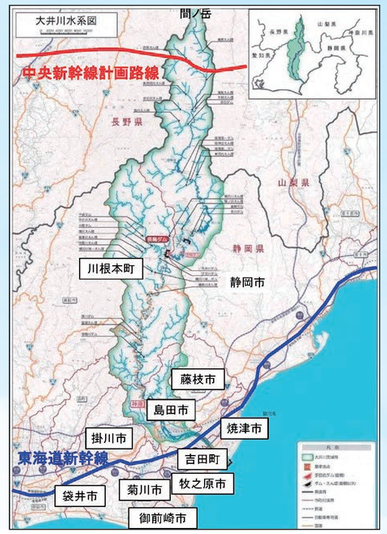
一層の事業の選択と集中を進めるために、10月末から11月の決算特別委員会や2月の当初予算審議でしっかりとチェックしていきます。

一．現場を知り、常に県民の立場で考え、行動する
一．政策は、エビデンスに基づき立案する
一．優先度の高い事業は、
　ビルド・アンド・スクラップ（創造的破壊）で選択する
一．和を尊び、多様な主体と連携・共創する
一．財源は自ら稼いで、効果を最大化する

※枠配分方式･･･予算編成にはさまざまな手法がありますが、主なものに財政当局が全事業を査定する方式と、一定額を部門に配分し部門の裁量で事業を決定する「枠配分方式」があります。どちらも一長一短あるのですが、静岡県はこれまで一度も「枠配分方式」を導入していませんでした。私はこれまで「部局が主体的に事業を見直すために、一度やってみてはどうか」と主張し今年度やっと導入されました。

県政トピックス　どうなってるの？リニア問題

9月定例会で最も話題となったのは、JR東海が計画しているリニア中央新幹線の南アルプストンネル工事に関することでした。



▼工事の概要

リニア中央新幹線は品川ー名古屋間286kmを最高時速505km、約40分で結ぶ計画です。南アルプストンネルは山梨県から静岡県を経由し長野県に抜ける全長約25kmのトンネルで、そのうち静岡県内約10.7kmを通過します。約25kmのうち山梨工区が約7.7km、長野工区が約8.4km、静岡工区が約8.9kmとなっています。

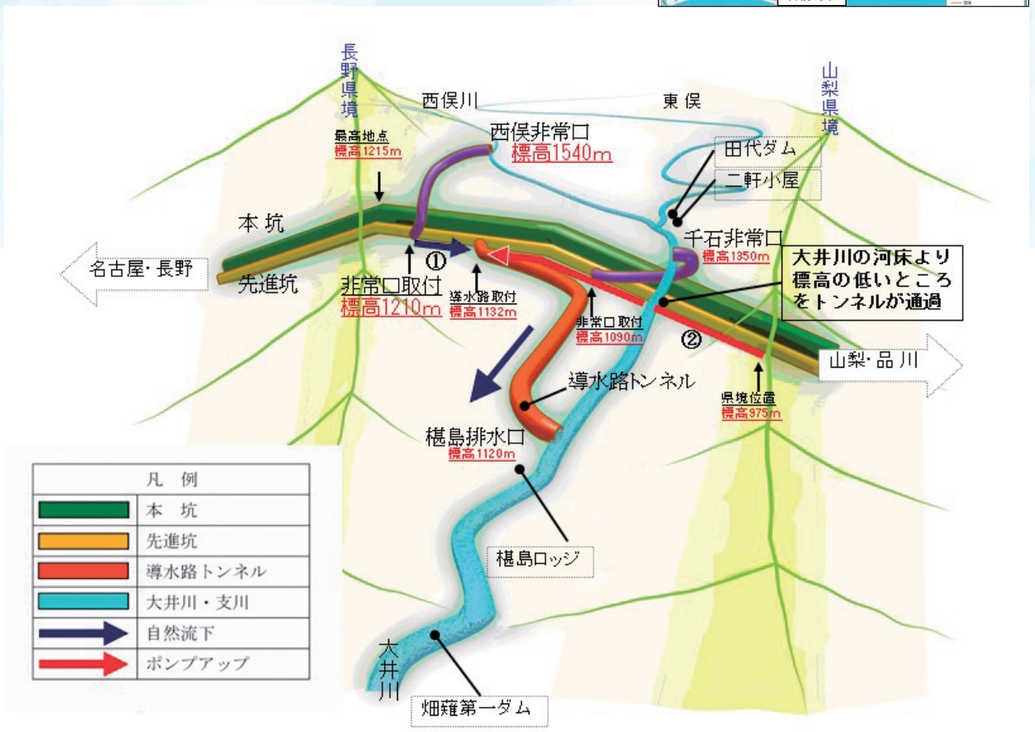
▼静岡県はリニア中央新幹線に反対なのか?

静岡県はリニア中央新幹線整備に反対しているわけではありません。

リニア中央新幹線は国民生活と経済社会を支える大動脈となり、東海道新幹線との二重系化により大規模災害時の防災力強化につながると考えています。

一方、この整備にあたっては大井川水系の水資源と南アルプスの自然環境の保全が必要です。JR東海は2013年に提出した環境影響評価準備書で、大井川の流量が毎秒2㎥減少すると推定しました。毎秒2㎥は1日あたり172,800㎥となり、仮に1人1日300リットル（=0.3㎥）の水道水を使用すると57万6千人分の水量となります。大井川流域の人口は約62万人ですので決して看過できる数字ではありません。さらに大井川では2018年12月から2019年5月まで147日間の節水対策を実施するなど水不足が深刻です。

こうした中、県は地域住民や利水者の理解を得られるよう、「中央新幹線環境保全連絡会議 専門部会」による科学的根拠に基づく話し合いをJR東海と進めています。



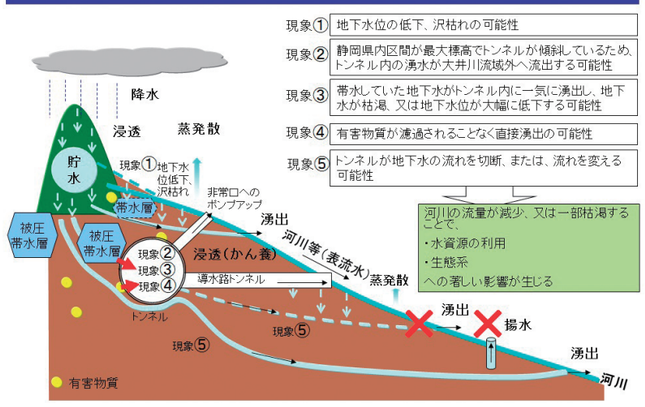
▼問題の所在

現時点の課題は大きく4つ。①トンネル湧水の大井川流域外への流出に伴う河川流量や地下水量の減少、②地下水脈の変化による地下水位の低下、③重金属等の有害物質を含む湧水あるいは水温等の水質が河川と異なるトンネル内湧水が河川への放水、流入することによる河川水質の悪化・変化、④沢枯れによる生態系への壊滅的影響が懸念されています。

▼今後の方向性

10月24日、国土交通省の事務方のトップである藤田事務次官が川勝知事を訪れ、今後の進め方に関する協議を行いました。国土交通省は、これまで協議を「見守る」立場でしたが、今後は「行司役」として、JR東海と県の協議が円滑に進むよう調整していくこととなりました。（10月末時点）

流域の住民生活や産業に欠かせない“命の水”･･･ 慢性的に水不足

概要	○大井川は、間ノ岳（標高3,190m）が源 ○幹川流路延長168km、流域面積1,280km²の一級河川
水利用	○水道用水（流域人口約62万人） ○農業用水（灌漑される農地面積は水田と茶園を主体に12,000ha） ○工業用水 ○発電用水（発電所15ケ所、総最大出力約64万KW）
地下水利用	○大井川下流の扇状地では地下水利用も盛ん ○約430の事業所が1,100本を超す井戸を設置

トンネル掘削により発生する可能性のある現象（リスク）のモデル図